

みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.114号 2020年4月8日発行

庭への想い

『みどりのゆび』に載せるには、少し違和感があるかもしれませんが、このボランティアの庭ができた当時のことを話したいと思います。

それまで草ぼうぼうの中でよくサッカーボールを蹴っていた空地に南病棟が増築されたのは1998年でした。この年以後、ボランティアの方々が庭づくりに加わってくれました。東屋が建ち、立派な小屋が南西の隅に建てられました。

この頃から庭の植物たちはきれいな花を咲かせるようになり、リハビリの患者さんたちの明るい笑顔が見られるようになりました。花々に囲まれたリハビリや、当時2階にあった緩和ケア病棟からは、外に出られない患者さんもベランダから眺めることができました。



環境が整うとともに、当時、日野原先生を中心に病院の医療環境を顕彰する会ができ、第1回の『癒しと安らぎの環境賞』に応募することになりました。全国で5病院が最優秀賞に選ばれ当院も東京で表彰を受けました。庭の花々の咲いた写真と共に「好きに摘んでください」という言葉が評判となりました。玄関にその盾が飾ってあります。

その後、多くのボランティアさんが加わり、また事情により当地を離れる人もいて、寂しい思いもしました。しかし、この庭はそうした方々の想いがつまった庭だと思っています。これからも長く守っていただきたいと思っています。[濱口]

*** 濱口 實先生（諏訪中央病院前院長）に寄稿いただきました。

新年度の活動開始にあたり、この庭の「これまで」に思いを巡らし、実りある「これから」につなげていければ、と思います。***



悲しいお知らせ

去る1月11日、世話役の小林恵子さんがお亡くなりになりました。小林さんは2005年にグリーンボランティアに入会され、私たちと共に積極的に活動されました。14日の告別式にはメンバー8名が出席しました。

心よりご冥福をお祈りいたします。



学習会について



1月～3月に行われた学習会の内容とアンケートの結果報告です。

◎1月22日（水）鎌田先生

テーマは認知症でした。タンパク質を大事にする食事と適切な運動で認知症を予防しようという内容でした。参加者から、やりたいことを実現するために、食事、運動を大切に、年を重ねることのマイナスイメージが無くなった、ボランティアを辞めないことが健康寿命につながるなどの感想が寄せられました。

◎2月19日（水）在宅・地域ケアセンター 高木先生

ギター演奏と歌を交え、地域での在宅医療を通して見えるお年寄りたちの人生のしまい方を暖かく、ユーモアたっぷりに伝え、充実した生き方についてのヒントをくださいました。参加者からは、レクチャーの内容にマッチした長渕剛の歌の素晴らしさ、前向きにいきいきと生きるための「役割」の大切さ、あるお年寄りから先生が学んだという長生きの秘訣等に心を打たれたという感想とともに、とても聴きごたえのあるお話なのに、聴衆が少ないのが残念だという声がありました。

◎3月18日（水）萩尾エリ子先生

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今回は延期となりました。

***1月、2月の学習会アンケートを通して、今後取り上げてほしいテーマとして植物の知識や世話に関することが挙げられていました。また、会員の出席率を上げるとともに、会員以外にも声をかけたらどうか、という提案もあり、学習会の参加者をどのように増やしていくか、という課題も見えてきました。

3月の庭の花たち

—いつものように春がやってきました！—



*** 今回のコラムはお休みします。 ***